



知事コラム

佐竹敬久のさあ、やるど！

令和2年、激動・混迷の年に！

年末年始に雪がないお正月は幾度か経験していますが、寒の入りになっても降雪が極めて少なく、秋田の冬とは思えない高めの気温が続くのは、物心ついて70年近くなる自分も初めての経験です。

歳を重ねると寒さが堪え、また暖房費が少なくて済むことから、個人的には暖冬は歓迎すべきことではと思うが、雪が降るのが前提の雪国の社会における極端な暖冬は様々な面に深刻な影響を及ぼします。

雪は一方では観光資源でもあり水資源でもあることから、山岳地帯の稼ぎ頭のスキー場、集客力がある各地の雪にちなんだ祭り、冬場の収入に依存する除雪関係業者、冬物商品の販売業者、さらには春以降の水不足が懸念される農業や水道事業者等々、県内外様々な分野で経験したことの無い極端な暖冬に不安が増しています。

この現象が今後通年的なものになるとすれば、それに合わせた対応策を講ずればよいのですが、極端な暖冬と大雪の年と両方が訪れるとなると、根本的な対応をとることができず戸惑うのみです。

今般の暖冬が地球温暖化の影響だとすると、令和2年という年は今後の経済社会の在るべき姿を真剣に考えなければならぬ年になるのではないのでしょうか。

また、正月早々にはアメリカとイランとが一触即発、第3次世界大戦にもつながるのではという緊迫した状況になり、世界に激震が走りました。

幸い、両国首脳の自制により大事には至らず済みそうですが、火種は完全に消えてはならず、さらに北朝鮮の動きには依然として目が離せない状況です。

そして、中国湖北省武漢市の海鮮市場が発生源とされるコロナウィルスによる新型肺炎の世界的な広がりにも不安感が増してきています。

県としても医療機関や検疫機関と連携をとり、いち早く防御体制の整備を進めています。

また、今回の新型肺炎の世界的拡大を防ぐため中国政府は国外への団体旅行等の禁止措置をとりましたが、中国から多数のインバウンド客を受け入れている日本では、地域によって経済の落ち込みも懸念されるなど波紋が広がっています。

2020東京オリンピック・パラリンピックを控え、何とか早く収束して欲しいと願うとともに、今後の動向が気になるところです。

いずれにしても、令和2年という年は国内外ともに目を離せない激動・混迷の年になりそうな様相を呈してきており、県政においても何が起きても適切な対応がとれるよう心の準備を欠かせない状況になってきました。